

阿蘇山における火山ガス組成観測結果（2020年4月まで）

2019年8月より、中岳第一火口西縁において、Multi-GASを用いた火山ガス組成の連続観測を開始した。その結果を、2019年以降の現地観測の結果と合わせて報告する（図1）。2020年2~4月の間、 CO_2/SO_2 比は約1~3、 $\text{SO}_2/\text{H}_2\text{S}$ 比は約5~50の範囲であり、2015年の噴火期に観測された値の範囲と概ね一致する。両比ともに、2019年のデータは、1日の中での変動幅が大きく、2020年のデータは、その変動幅は小さくなった。そのうえで、両比ともに2019年8~11月に低下傾向、2020年2~4月に $\text{SO}_2/\text{H}_2\text{S}$ 比のみ増加傾向を示した。 CO_2/SO_2 比の低下や $\text{SO}_2/\text{H}_2\text{S}$ 比の増加は、脱ガス圧力の低下を示すと解釈できるが、 CO_2/SO_2 比の低下は熱水系由来の高 CO_2/SO_2 比を示すガスの寄与の低下とも考えられ、表面現象や熱活動との対応関係と合わせて検討する必要がある。

2019年4月末より連続観測は停止しており、今夏中の復旧を予定している。なお、観測に際して阿蘇火山防災会議協議会にご協力いただいた。記して感謝申し上げる。

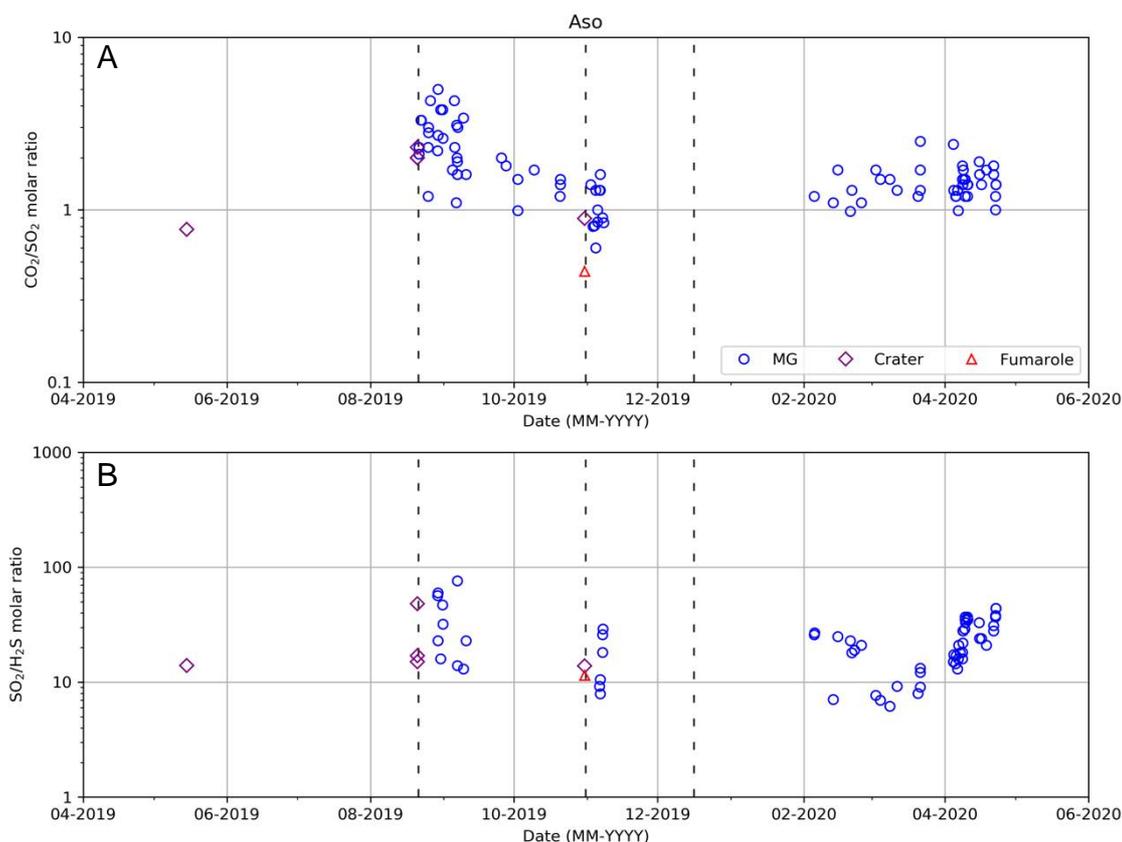


図1 阿蘇中岳火山ガス組成観測結果（A, CO_2/SO_2 比; B, $\text{SO}_2/\text{H}_2\text{S}$ 比）。凡例は丸が連続観測、菱形と三角がそれぞれ第一火口中央の火孔と南側火口壁の噴気の現地観測に対応。破線は観測装置の感度校正作業を示す。2019年12月以降のデータは感度校正による補正が行われていないため、示した結果は暫定値である。